

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 3 部門第 2 区分  
【発行日】令和 2 年 9 月 17 日 (2020.9.17)

【公表番号】特表 2019-534274 (P2019-534274A)  
【公表日】令和 1 年 11 月 28 日 (2019.11.28)  
【年通号数】公開・登録公報 2019-048  
【出願番号】特願 2019-520560 (P2019-520560)  
【国際特許分類】

A 6 1 K 8/22 (2006.01)

A 6 1 Q 11/00 (2006.01)

A 6 1 K 8/31 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/22

A 6 1 Q 11/00

A 6 1 K 8/31

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 2 年 8 月 4 日 (2020.8.4)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 2 1 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 2 1 3】

( 実施例 I )

実施例 I - A、及び B の多相口腔用組成物を、上記の手順を使用して作製し、35%の過酸化水素の水溶液にて配合した。本明細書で明記された手順を使用して、次のパラメータが、実施例 - I - B において測定された。a) 二次元平面の平方センチメートル当たり約 10000 平方ミクロンよりも大きい断面領域を伴う、多相口腔用組成物の水相の、二次元の液滴密度、b) 過酸化物試験ストリップ上に塗抹された多相口腔用組成物の過酸化物濃度の標準偏差、c) 過酸化物試験ストリップ上に塗抹された多相口腔用組成物の過酸化物濃度の平均。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 2 1 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 2 1 4】

【表 4】

| 実施例I  | A<br>(重量%) | B<br>(重量%) |
|---|------------|------------|
| 35%の水溶液H <sub>2</sub> O <sub>2</sub> <sup>1</sup>   | 0.2857     | 2.857      |
| ワセリン <sup>2</sup>   | 99.7143    | 97.143     |
| 合計  | 100.00     | 100.00     |
| 総口腔用組成物におけるH <sub>2</sub> O <sub>2</sub> の%   | 0.099995   | 0.99995    |
| 比率*   | 350.02     | 35.002     |
| 本明細書で明記された手順を使用して測定された、二次元平面の、<br>平方センチメートル当たり約10000平方ミクロンよりも大きい<br>断面領域を伴う、水相の二次元の液滴密度   |            | 10.3       |
| 本明細書で明記された手順を使用して測定された、過酸化水素試験<br>ストリップ上に塗抹された多相口腔用組成物の過酸化水素濃度の標準偏差。  |            | 50.17      |
| 本明細書で明記された手順を使用して測定された、過酸化水素試験<br>ストリップ上に塗抹された多相口腔用組成物の過酸化水素濃度の平均。  |            | 47.55      |
| 本明細書で明記された手順を使用して測定された、過酸化水素試験<br>ストリップ上に塗抹された多相口腔用組成物の過酸化水素濃度の標準偏差に<br>対する、本明細書で明記された手順を使用して測定された、過酸化水素試験<br>ストリップ上に塗抹された多相口腔用組成物の過酸化水素濃度の比率 |            | 0.95       |

\* 組成物全体中に存在するH<sub>2</sub>O<sub>2</sub>の重量パーセントにおける濃度に対する、水相中に存在するH<sub>2</sub>O<sub>2</sub>の重量パーセントにおける濃度の比率

<sup>1</sup> Solvay (ヒューストン、テキサス州)からの、ultra Cosmetic Grade

<sup>2</sup> Sonneborn LLC (パーシッパニー、ニュージャージー州)からの、G-2191 Grade

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

1つ以上の有効成分を送達するための多相口腔用組成物であって、

a) 有効成分を含む、前記多相口腔用組成物の0.002重量% ~ 15重量%の水相と

b) 前記多相口腔用組成物の、50重量%超のワセリンである疎水性相と、を含み、前記多相口腔用組成物全体中存在する有効成分の重量パーセントでの濃度に対する、前記水相中に存在する有効成分の重量パーセントでの濃度の比率が、少なくともも6であり、前記有効成分の濃度が、前記多相口腔用組成物の10%以下であり、かつ前記多相口腔用組成物が、油中水型エマルジョンである、多相口腔用組成物。

【請求項2】

前記多相口腔用組成物全体中に存在する有効成分の重量パーセントでの前記濃度に対する、前記水相中に存在する有効成分の重量パーセントでの前記濃度の前記比率が、少なくとも10である、請求項1に記載の多相口腔用組成物。

【請求項3】

前記多相口腔用組成物全体中に存在する有効成分の重量パーセントでの前記濃度に対する、前記水相中に存在する有効成分の重量パーセントでの前記濃度の前記比率が、少なくとも30である、請求項2に記載の多相口腔用組成物。

【請求項4】

前記有効成分の量が、前記多相口腔用組成物の1重量% ~ 5重量%の範囲である、請求

項 1 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 5】

前記疎水性相又は前記多相口腔用組成物の円錐貫入稠度値が、ASTM D 937 - 07 により測定された際に 100 ~ 300 である、請求項 1 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 6】

前記疎水性相又は前記多相口腔用組成物の前記円錐貫入稠度値が、ASTM D 937 - 07 により測定された際に 100 ~ 250 である、請求項 5 に記載の多相口腔用組成物。

°。

【請求項 7】

前記疎水性相の滴下融点が、ASTM D 127 - 08 により測定された際に、40 ~ 80 である、請求項 1 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 8】

前記疎水性相の前記滴下融点が、ASTM D 127 - 08 により測定された際に、50 ~ 80 である、請求項 7 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 9】

10000 平方ミクロンよりも大きい断面領域を伴う二次元の液滴密度が、平方センチメートル当たり 20 以下である、請求項 1 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 10】

10000 平方ミクロンよりも大きい断面領域を伴う前記二次元の液滴密度が、平方センチメートル当たり 10 以下である、請求項 9 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 11】

前記多相口腔用組成物は、有効成分としての過酸化物を含み、過酸化物試験ストリップ上に塗抹された前記多相口腔用組成物の過酸化物の濃度の標準偏差が 50 以下である、請求項 1 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 12】

過酸化物試験ストリップ上に塗抹された前記多相口腔用組成物の前記過酸化物の濃度の前記標準偏差が 25 以下である、請求項 11 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 13】

前記多相口腔用組成物は、有効成分としての過酸化物を含み、過酸化物試験ストリップ上に塗抹された前記多相口腔用組成物の平均過酸化物濃度が 1 ~ 100 である、請求項 1 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 14】

前記多相口腔用組成物は、有効成分としての過酸化物を含み、歯の上に塗抹された前記多相口腔用組成物の平均残留過酸化物濃度が 20 ~ 200 である、請求項 1 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 15】

前記有効成分が、再石灰化剤、抗結石剤、フッ化物イオン源、抗菌剤、歯科用減感剤、麻酔剤、抗真菌剤、抗炎症剤、選択的 H - 2 拮抗剤、選択的 TRPM8 - 拮抗剤、抗カリウム剤、栄養素、エリスリトール、又はプロバイオティクスのうちの少なくとも 1 つを含む、請求項 1 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 16】

- b \* として算出された、臨床的プロトコル当たりで測定される、前記多相口腔用組成物の有効性が、少なくとも 1 . 5 である、請求項 1 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 17】

前記多相口腔用組成物全体中に存在する漂白剤の重量パーセントに対する、- b \* として算出された、臨床プロトコル当たりで測定された、前記多相口腔用組成物中の漂白剤の有効性の比率が、少なくとも 1 . 5 である、請求項 1 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 18】

送達支持材料を含む、請求項 1 に記載の多相口腔用組成物。

【請求項 19】

前記送達支持材料がストリップである、請求項 1 8 に記載の多相口腔用組成物。